



代表取締役社長
長谷川 武彦

新たな創刊によせて

この度、技術会技報が装いも新たに、ヤマハ発動機株式会社の技報として発行されることになりました。技術会という友好の士の集まりで始まった技報が、早や10年を数えるまでになり、内容も年々充実し、社内の技術情報を会の内部に伝える役割から、社内外に成果を問うという段階に発展して参りました。ここまで創り育て上げてきた技術会の皆さんの熱意と努力に敬意を表するとともに、お礼を申し上げます。

思えばこの10年間は、世界的な規模であらゆる分野に、激動ともいえる変化が起きました。改めて、世界秩序の重大さと自然破壊やエネルギー消費の意味の重さを痛感致します。

このような変化の中で、ヤマハ発動機は一貫して、世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供するため、本物のモノづくりを目指して、努力してきました。この方針はこれからも変わることはありません。

本物は、新しい価値を社会に提供すると同時に、
使う人に感動を与えるものであり、
一目でわかるものでなければならない。

いいかえれば、＜本物でなければ、感動をあたえられない＞ということでしょう。本物は、まず個人が最初に考え創り出すもので、チームや組織がそれを完成させるものがほとんどです。従って、個人の創造力を尊重することが、組織にとって大変重要です。異論や異見を許容し、お互いに切磋琢磨して、徹底的に本物を作り上げる風土こそが、ヤマハ発動機の活力の源泉ではないでしょうか。もちろん個人の創造や異論は単なる差別のためではなく、真の目的に合致したものであることが条件であることは言うまでもありません。

本物のモノづくりをめざして研鑽された成果や未知を追求した技術を、この技報によって、内外に幅広く知っていただくとともに、評価をしていただき、そしてこれからの技術を極めるためのヒントや励みにしていただきたいと思います。

おわりに明日を拓く技術を産み出す皆さんの活躍を期待して、ご挨拶とさせていただきます。